

MIBUTANI ITA

伝統的工芸品 二風谷イタ

NB03



物語は、日高の大河 沙流川から始まります

日高地方最長の大河、沙流川。

その名前のかたちはアイヌ語にあり、

古名のシン・イ・カ（大雨が降り水かきが増すたびに河口が土砂でふさがるといふ意味）が示すように

豊富な水と土砂の供給により

下流域にすく（窪地）が広がったとよに由来すると言われています。

日高山脈北部を源流とするこの川は

山岳地帯からつねに大量の土砂を運びつけ、

中流から下流の大地を押し広げながら現在の風景をつくりあげました。

「風谷」はその中流域に位置する土地です。

流域全体にはたぐとんのアイヌ語地名が残り、

さらにイルエカ遺跡（沙流川支流の着着川・下流右岸）からは、

はるか先史時代（約一万年前の旧石器時代）にさかのぼる石器が

出土しました。

この地には「太古から人々の暮らしを支え、引き寄せる

力と魅力があったのです。

沙流川流域の豊かな森は、

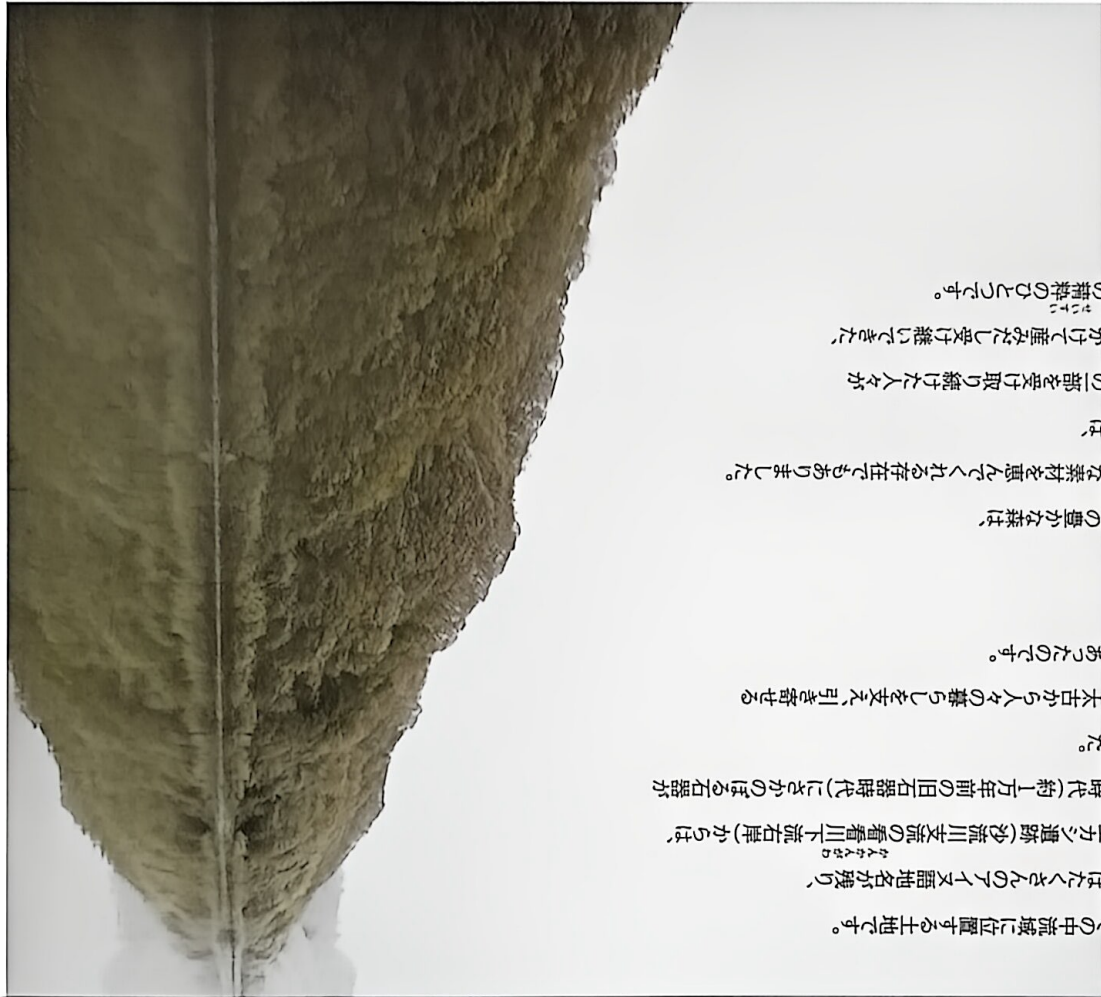
生活に必要な素材を恵んでくれる存在でもありました。

「風谷」々は、

そんな恵みの恵みを受け取り続けた人々が

長い時間をかけて産みだし受け継いできた、

アイヌ文化の遺産のひとつです。



二風谷イタが語ること

伝統的工芸品指定に選ばれた歴史

二風谷イタとは、沙流川流域に古くから伝わり、現在はおもに平取町二風谷で伝統的技法が継承されている、木製の平たい形状のお盆です。アイヌの伝統文化には、例えば刀物の鞘やタバコ入れ、衣服やコザ、織機のかぐなど、日常使う道具を文様で美しく飾る志向が強く残っています。

カツラやクルミの木などで作られるこの工芸品の最大の特徴は、モレウノカ(渦巻きの形)、アイウシノカ(刺のある

形)、シウノカ(目の形)、チウチウカ(ウロコ文様)などに代表されるアイヌ文様が、表面の面全体に彫り込まれている点にあります。

二風谷イタは2013年の3月、北海道では初めてとなる、経済産業省による「伝統的工芸品」の指定を受けました。これは主に日常生活で使われる手づくりの工芸品を対象に、伝統的な技法と素材によりて産地が一定の地域で成り立っている手づくりを支援していく仕組みです。全国では200以上の指定

産品があり、最も多い京都府では7品目、新潟も10品目を数えます(2013年12月現在)。しかしこれ



まで北海道には、指定を受けたモノづくりがありませんでした。開拓史観による北海道の歴史叙述において、アイヌ民の技巧が正しく評価されてこなかったという背景もあると考えられます。

平成9(1997)年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に關する知識の普及及び啓蒙に關する法律」が施行され、アイヌ工芸の振興が圖られるものになりました。そうした国の動きの中、平取町では伝統的工芸品指定に向けた調査・市販を行っていました。

二風谷のイタの歴史にゆかりに記れるのは、榊本の安兵衛(1894-1990)。松前藩の藩士に転じる産品の仕立、

沙流川流域の半月盆や丸盆の記録があります。献上品となるほどの完成度があつたという事実は、それに先行する地域の長い営みが想像できます。

時代が下つて1890年代(明治20、30年代)、貝澤ウレントクと貝澤ウエサナは、チウチウカ(ウロコの形)を多用した盆や茶托などを販売していました。『平取町史』(1974年)には、彼らが作品を札幌で販売したという記述があります。貝澤ウエサナは作品はいま平取町立二風谷アイヌ文化博物館にあり、今日の作品とも共通する文様や作風を見ることができます。

また1904(明治37)年、アメリカの人類学者フレデリック・ベターはアイヌ研究のために来日しました。彼が集めた資料の中には、二風谷のイタも含まれていました。

イタのいまと未来

二風谷イタは現在、二風谷民芸組合が中心となって製造と販売を行っています。組合は、次の時代を見すえた技法の継承

にも力を入れています。作家にとってイタは「画家」として

てのキャンバスです。一般の日用品に比べてとても大きく

な平面に、さまざまな発想とデザインを自由に展開

することができ、イタの制作は、工芸の伝統と作

家の個性が交わる豊かな世界です。

昭和の観光ブームが二風谷の工芸に大きな

活力をもたらしたように、二風谷イタはいまは

伝統的工芸品の指定を受けて、さらに新たな歩

みの翼を振るうとしています。二風谷の歴史、風土

とアイヌ文化が生み出す文様の一本二本の線は、し

なやかな生命力に輝いています。先人たちが作り上

げた伝統を継ぎ、イタの未来は、工芸やアートの世界

を越え、新しい可能性を開いていくかもしれません。

イタは、1951年、10年と、20年と、想う人々との関わりが深く長

くつながり、いまだに暮らしの隅々まで愛されています。

二風谷イタと暮らしのつながりを大切に、これからも愛しつづけてい

ワエサシイタ(近代) 254mm×332mm(二風谷アイヌ文化博物館蔵)



観光ブームが育んだ継承の道

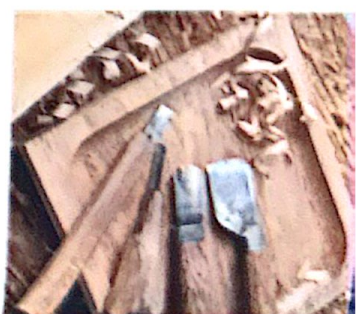
現在のイタの作り手の中心は、オムベツとイタから数えて4代目の世代です。青年時代の彼らが旅を離れた1960年代から70年代、高度経済成長やソーラー・エレクトロニクスの発展によって、北海道に観光ブームが起りました。道内外に北海道の豊かな自然や独特の文化が知られるようになり、人々はまた見北北海道を目ざし、たのです。平取町の中心を通る国道237号は道央と道東や道北を結ぶ大動脈だったので、多くのアーティストがアイヌ文化が色濃く残る二風谷にも降り立ちました。

こうした観光客が求める土産品や贈答品のために、イタのほかにはクマやニゴリ熊人形、シリートなど、さまざまな木彫りが作られました。二風谷の木彫は、土産品の枠組みから観光土産品の領域にまで展開したのです。地域は好景気にわき、町内外から多くの若者が木彫の技法を学びにきました。この時代を担った3代目の世代から、現在の作り手たちはアイヌ文化の木彫の技法をさすかたが、現在の作り手たちはアイヌ文化の木彫の技法をさすかたが、地域のモノづくりが産業としての底力を培ったのも、この観光ブームでした。そして作り手たちは時代の追い風を受けながら、伝統だけににとまらな、そして従来の観光土産品のイメージやクオリティを超えた、新たな手法やデザインにも取り組んでいき



イタ(近代) 直径254mm(二風谷アイヌ文化博物館蔵)

二風谷イタの制作工程



【一】底取り

底取りした板の内側を段差刨で同じ深さに削って、彫る面を整えていきます。
内側の縁のラインも丸ノコで美しく仕上げます。



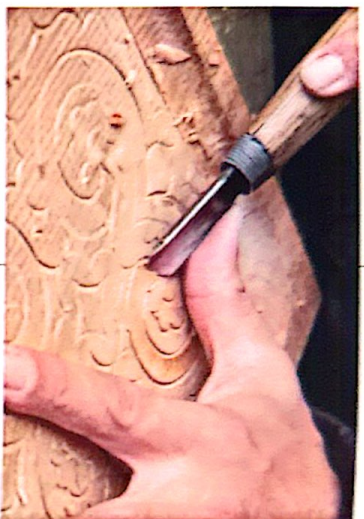
【二】裏面仕上げ

裏面の角を面取りしていきます。
これで板の形取りが完成です。



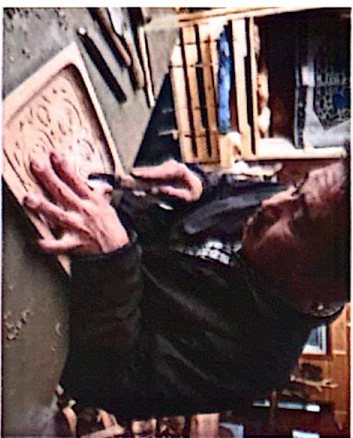
【三】文彫り

文彫をきかすとし、そのうすみに沿って三日月で彫取りをしていきます。穴はすべりだす、文彫彫と彫彫を



【四】二重線彫り

文様のうすみをさらに加え彫りの表情を豊かにしていきます。



基本となる文様

アイヌ文様にはさまざまな種類の広がりがあります。その中で代表的なモチーフには、モレウノカ、アイウシノカ、シクノカ、ラムラムノカの4つがあげられます。ノカとは、形の意味です。二風谷イタは、これらの伝統的な文様を主なモチーフに、地域に受け継がれている歴史と作家の個性が組み合わされて生まれます。

ラムラムノカ

ラムラム=ウロコ。

文様と文様のあいだを埋める地の装飾のひとつで、「ウロコの形」です。



シクノカ

シク=目。「目の形」です。

モレウノカ

モ=静か、レウ=曲がる。

静かに曲がる形。「渦巻きの形」です。

アイウシノカ

アイ=とげ、ウシ=〜がつく。

アイウシ=「刺のある形」です。

〔5〕ウロコ(ラムラムノカ)の 線入れ

モレウノカ(渦巻き)やシクノカ(目の形のあいだを埋めるように、木目を縦方向にして、印刀でウロコの文様となる枡目を引いていきます。このウロコ彫りをひとつの作品に多用するのが、二風谷イタの特徴です。



〔6〕ウロコ(ラムラムノカ)の 起こし

印刀の裏刃でウロコをひとつひとつ起こしていきます。枡目の半分が彫られることとなります。ウロコの面積の大きさと独特の表情が、二風谷イタならではの表情を作ります。



〔7〕仕上げ

細部の調整をして完成です。





つとむ民芸店
北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-2694



Kaizawa Kouji

貝澤幸司

北海道で最初の伝統的工芸品の指定を受けて、イタへの関心が高まっていることを実感します。曾祖父ウトレントクからの技術をさらに展開させて、次の世代に引き渡していきたいと思っています。



北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-3534



Kaizawa Mitsuo

貝澤貢男

イタの製作は、若いときに萱野茂さんの教えを受けました。ウロコ彫りにも引いて彫る方法と押して彫る方法があります。そうした沙流川流域ならではの特徴的な伝統技術を、大切に守っています。

二風谷イタの作家たち

作品のお問い合わせ・ご購入は、各作家または二風谷工芸館で承ります。

二風谷工芸館

〒055-0101 北海道沙流郡平取町字二風谷61-6
(平取町アイヌ文化情報センター内)

Tel: 01457-2-3299

午前9時～午後5時
休館日/11月16日～4月15日の毎週月曜日
12月31日～1月5日



貝沢民芸
北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-2584



Kaizawa Mamoru

貝澤守

子どものころから、父や父の弟子の方々からイタの技術を学びました。先代の技をしっかりと受け継ぎながら、そこに自分ならではの文様や技術を掛け合わせていくことを考えています。



高野民芸
北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-3397



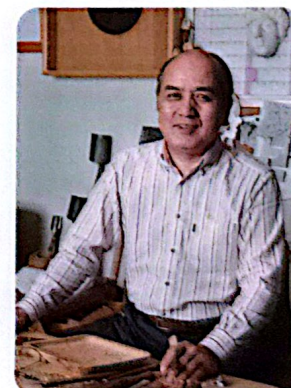
Takano Shigehiro

高野繁廣

1972年、22歳のときに東京から無銭旅行をつづけて二風谷に来て40年以上がすぎました。二風谷の風土と木彫に魅せられ、伝統工芸を現代の日常づかいに活かす創作に取り組んでいます。



北の工房つとむ
北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-3660



Kaizawa Toru

貝澤徹

二風谷に生まれた私たちの子どもころには、大人の男は木彫り、女はアットウシを織ることが当たり前環境がありました。曾祖父ウトレントクのイタを原点に、新たな表現にもさまざまに取り組んでいます。

二風谷を歩く

四季を通してつねに沙流川とともにある二風谷の風景。
イタをはじめとした独特の工芸品のふるさとを歩いてみませんか。

1. 平取町立二風谷アイヌ文化博物館

沙流川流域で営まれてきたアイヌ民族の歴史文化や世界観を紹介するミュージアムです。コレクションは衣類や住用具、狩猟・農耕具、祭具など幅広い分野に及び、近・現代のイタの展示もご覧いただけます。

北海道沙流郡平取町字二風谷55番地
Tel:01457-2-2892



2. 平取町アイヌ文化情報センター

現代のアイヌ文化を発信する拠点です。二風谷在住作家の作品が、館内の二風谷工芸館に展示されており、購入もできます。また工芸館では、一流の工芸家の指導を受けながら木彫や刺繍などの実習体験が楽しめます(予約が必要です)。さらに図書閲覧コーナー、AVコーナー、アイヌ文化に関する書籍販売コーナーなどもご利用いただけます。

北海道沙流郡平取町字二風谷61番地6
Tel:01457-2-3299



3. 沙流川歴史館

二風谷ダム建設工事にともなう発掘調査で出土した土器や石器など、さまざまな考古学資料が展示されています。沙流川流域の太古からの営みと自然環境を知ることができます。

北海道沙流郡平取町字二風谷227番地2
Tel:01457-2-4085



4. 萱野茂二風谷アイヌ資料館

二風谷に生まれ育ったアイヌ民俗文化研究家、萱野茂の個人コレクションを公開しています。展示は世界各地の先住・少数民族の生活・工芸にも及びます。チセ(伝統家屋)をはじめとする野外展示などもあります。

北海道沙流郡平取町字二風谷79番地
Tel:01457-2-3215

5. 旧マンロー邸

医者であり考古学・人類学の研究者であった英国人ニール・ゴードン・マンロー(1863~1942)は、アイヌの生活風俗研究のために二風谷に移住し、医者としての奉仕活動にも生涯を捧げました。住宅兼診療所であった建物です。

北海道沙流郡平取町字二風谷
*邸内見学は二風谷アイヌ文化博物館へ要相談(10名以上、1ヵ月前まで)



洲崎春男

関西で育ち19歳のときに北海道に生まれました。イタは、自然と人が深く関わり合う暮らしから生まれました。口承文芸のユカラなども学びながら、その精神文化を形にしたいと思っています。



Suzaki Haruo



北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-3396

尾崎剛

18歳で二風谷に来て師につきましました。一人前になってからも、先人たちの作品を実物や本で学んできました。沙流川流域ならではのラムラムノカ(ウロコ彫り)の魅力を味わってください。



Ozaki Tsuyoshi



北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-2564

関根真紀

子どものころから身の回りにすぐれた工芸品があり、その良さをずっと知りたいと思い創作の道に進みました。二風谷工芸館では、作家の立場からお客さまに説明をさせていただきます。

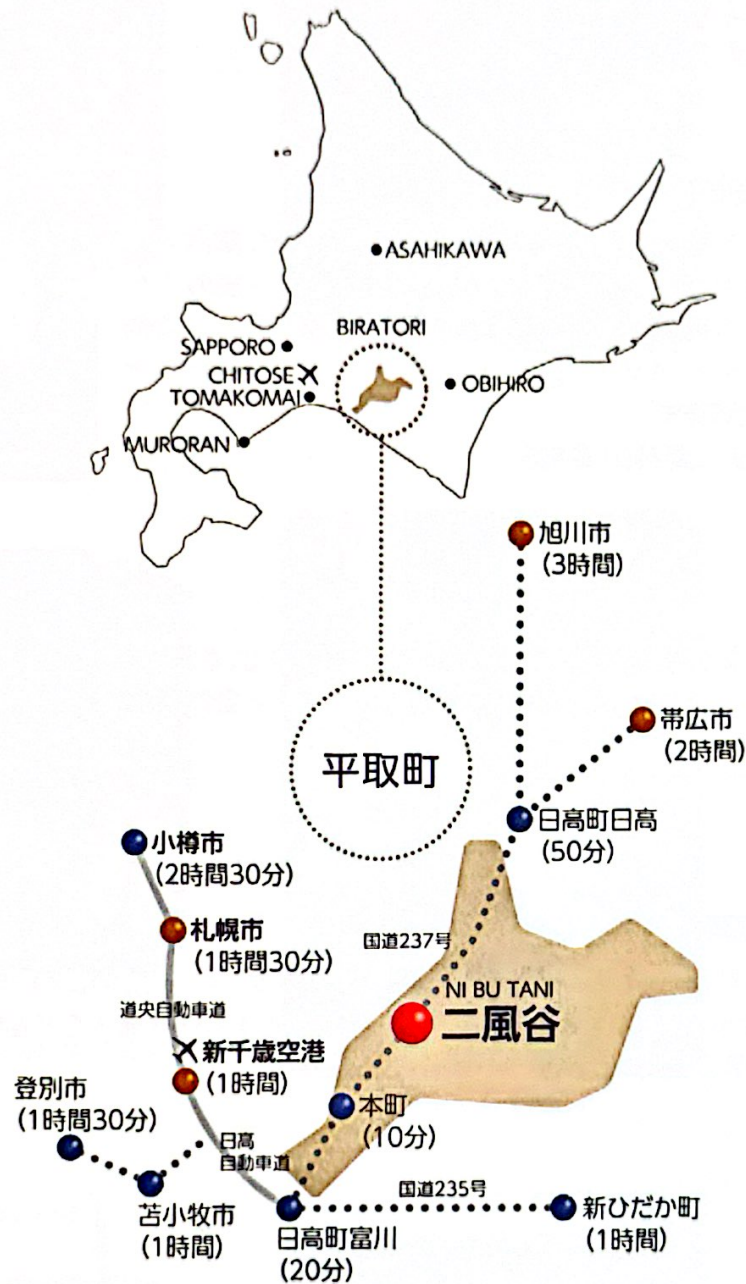


Sekine Maki



北海道沙流郡平取町字二風谷
Tel:01457-2-2145

HOKKAIDO



※ ()内は、二風谷から車で各地へ向った時の平均的な所要時間です。

二風谷民芸組合

〒055-0101 北海道沙流郡平取町字二風谷61-6

TEL 01457-2-3299(二風谷工芸館)